

# 2011 波浮港現代美術展

8.13 ~ 28, 2011

【報告展】 9.9 ~ 18, 2011

The International Contemporary Art Exhibition 2011  
at HABU Harbor, Izu-Oshima Island in Tokyo

富士に つらなる 火の島の  
 ほのほに うがつ 火のみなと  
 星月古りて しづまれど  
 かの聖き火を 心とす  
 友よ われらは 波浮の子ぞ  
 友よ われらは 波浮の子ぞ

(波浮小学校校歌 佐藤一英)

PHOTO COURTESY OF ISAMU KANEKO

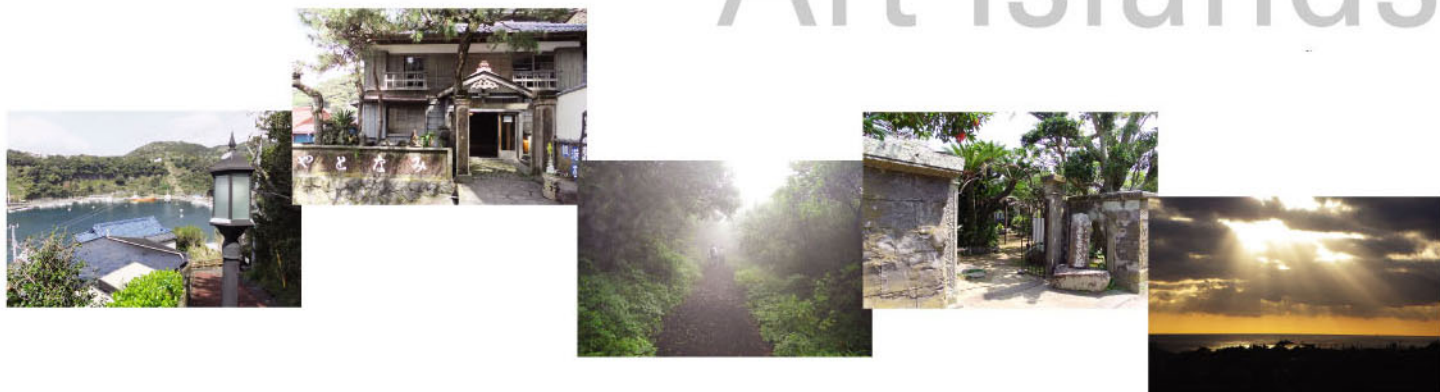
東京の島々は、自然豊かで独自の文化を培って来た美しい島で成り立っています。その島々を結ぶのは船や飛行機等の乗り物だけでなく、島を愛する心・人や文化を尊ぶ心です。島に住む人の心の豊かさを、アートというキーワードで結びつける「The Art Islands in Tokyo」が始まります。その第1回目の展覧会は大島の南端の港町からスタートをします。日本人19名のほか外国人美術家5名が来島し参加します。

3月11日以降、多くの美術家はそれ以前と異なったスタンスで己と作品に対峙しているように思います。日本への渡航の制限を勧告する国や、福島からの参加者も含む20数名の美術家は、「島」と「今」と「世界」と「あなた」と「わたし」をどのようなアート航路で結びつけてくれるのだろうか。

#### 目次

会場	1
来場数の内訳と特徴	2
参加作家一覧	3
作家と作品	4
ワークショップ/パフォーマンス	18
実行委員会活動記録抜粋	19
アルバム	20
感謝の言葉/今後へ向けて	24
メディア/編集後記	25

# Art Islands



### 3つのエリアの会場

#### 【旧波浮小学校】\*1

134年の歴史を持つ小学校。2009年閉校となる。

#### 【旧甚の丸邸とそのエリア】\*2

明治時代の網元の屋敷。港の高台に位置する住宅街にある。

#### 【旧西田寿司と旧三崎屋】\*3

波浮港1番地の商店街にある建物。往時を偲ばせるこった装飾が施された建物。

そして、それらを結ぶ空間に位置する崖や空き地、民家の庭先も会場となった。

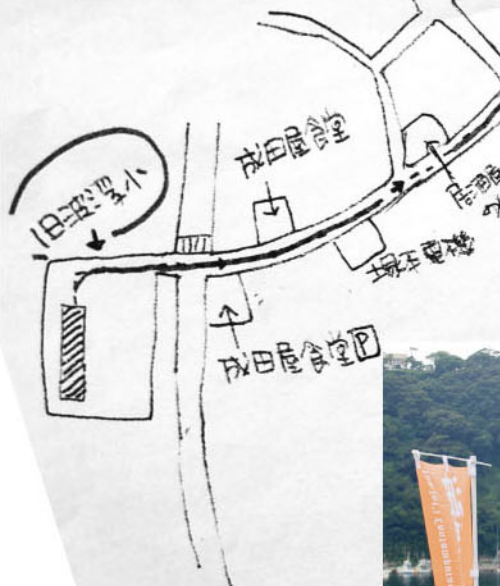


\*2

波浮港現代美術展 2011  
旧波浮小学校 ~ 甚の丸 ~ 港へ



\*3



\*1

## 来場数の内訳と特徴

日付	大島	東京	神奈川	埼玉	千葉	他	不明	合計
8/12	30	11	0	0	0	0	0	41
8/13	21	8	2	2	1	1	4	39
8/14	25	2	6	2	0	1	12	48
8/15	10	3	0	0	0	1	32	46
8/16	15	6	0	1	0	0	27	49
8/17	10	0	0	0	0	0	26	36
8/18	35	1	0	0	0	0	3	39
8/19	24	2	0	0	0	0	7	33
8/20	61	12	7	5	4	5	4	98
8/21	38	24	2	1	2	0	23	90
8/22	17	3	0	3	0	0	0	23
8/23	22	2	0	1	1	0	0	26
8/24	8	1	0	2	0	0	0	1
8/25	36	4	4	2	2	2	1	51
8/26	16	5	0	0	0	0	0	21
8/27	69	8	2	0	2	2	0	83
8/28	42	8	1	2	2	0	0	55
合計	479	100	24	21	14	12	139	789

789人という記名者数は、メイン会場の波浮小学校会場のものである。準備に追われ、オープニングセレモニーを行った12日と、最初の見学会の13日は受付の体制が整わなかった。さらに無記名での入場や他の会場だけを見学した方がいらした事を考慮すると、少なくとも900人ほどの見学者があったものと思われる。

島内からは、近隣の波浮地区や差木地区から多くの方が訪れた。家族や友人同士で来られる方が多く、岡田、元町からも車に乗って来られた。島内の訪問者の特徴は一度見た方が他の方を誘い再度会場を訪れる「リピーター」が多かった事である。

島外の方も2割ほどあった。多くは首都圏近郊在住者で里帰りの家族、ゼミ研修で来ていた大学生のグループ、偶然この展覧会を知った観光客も含まれていた。作家たちが発表しているギャラリーや、同じような企画をしている方も訪れた。

今回の展覧会は多様な発表が混在した。アカデミックでしかも現代の技法を生かしたモンゴルや中国の平面作品。廊下やトイレの空間に設置した立体作品。直接触れたり、部屋を自由に動きながら鑑賞するインスタレーションの作品、住民とのふれあいそのものをコミュニケーションアートや身体を使う舞踏やパフォーマンスもあった。

手前味噌ではあるが、その多様性のため訪れた人どの人にも一つは琴線に触れる作品に出会えたと自負している。それでも中には、芸術は理解しがたいものとして十分楽しめなかった方もいたかもしれないが、子供が大人用のスリッパをばたばたさせながら楽しげに会場を走り回る姿に、今回の展覧会の意味を見いだす思いであった。

公開期間の最後まで、会場を訪れる人が減らなかった事や、17日間で789人が訪れた現代美術展が東京の島々にあってどのような意味を持つのか考えて行きたい。

(高田 芳樹)

### 【8月12日：オープニングセレモニーでの挨拶】



川島 理史 (大島町 町長)



秋廣 道郎 (NPO法人 波浮の港を愛する会 理事長)



高田 芳樹  
2011波浮港現代美術展実行委員会 委員長

### 【8月12日：第二部 歓迎セレモニー】

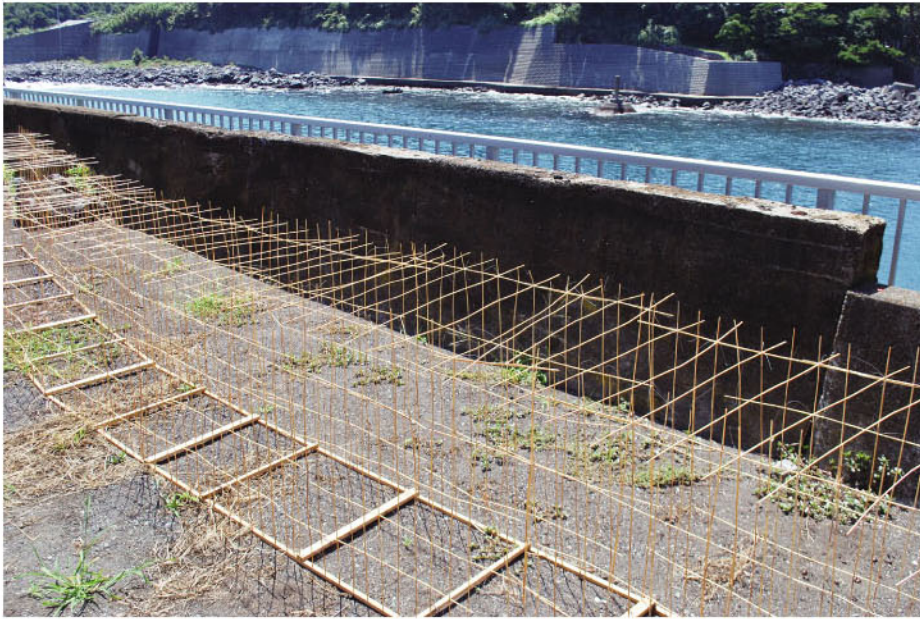


金子 勇 (NPO法人 波浮の港を愛する会 副理事長)



## 参加作家一覧

NAME	PAGE	〒 PHONE	ADDRESS	E_MAIL
上杉 英/Suguru Uesugi	4	359-1145 080-3088-0060	埼玉県所沢市山口2898-5	NQF40143@nifty.com
大矢 りか/Rica Ohya		410-3216 0558-87-0919	静岡県伊豆市上船原1190-2	ohyarica@yahoo.co.jp
岡 孝博/Takahiro Oka	5	350-0822 049-225-8815	埼玉県川越市山田907-11	pipitnloru@hotmail.com
尾形 勝義/Katsuyoshi Ogata		100-0101 04992-2-4708	東京都大島町元町字仲中49-48	whitehead@ivy.ocn.ne.jp
小林 ナオコ/Naoko Kobayashi	6	183-0006 042-365-3802	東京都府中市緑町2-10-9	k70ko@ybb.ne.jp
坂牛 幹雄/Mikio Sakaushi		359-1142 0429-25-8592	埼玉県所沢市上新井4-34-11	
坂口 啓子/Keiko Sakaguchi	7	100-0212 04992-4-1670	東京都大島町波浮港17番地	cumocumo@crocus.ocn.ne.jp
柴田 智明/Tomoaki Shibata		186-0005 090-421-3908	東京都国立市西1-1-38	wasurerare@live.jp
島村 宗充/Munemitsu Shimamura	8	235-0015 045-355-0664	神奈川県横浜市磯子区久木町8-4	kirrin_2@ybb.ne.jp
菅沼 稔/Minoru Suganuma		252-0224 042-753-3212	神奈川県相模原市中央区青葉3-16-6	msuganuma@jcom.home.ne.jp
菅原 史也/Fumiya Sugawara	9	330-0835 048-644-1064	埼玉県さいたま市大宮区北袋町1-190-2-A122	hannabach815mt@camel.plala.or.jp
高島 芳幸/Yoshiyuki Takashima		330-0064 080-3445-4124	埼玉県さいたま市浦和区岸町6-10-15	y_takabwv988gg@yahoo.co.jp
高田 芳樹/Yoshiki Takata	10	177-0035 03-6760-7258	東京都練馬区南田中2-4-11	tokiotakataka@msn.com
竹内 博/Hiroshi Takeuchi		112-0006 090-3067-3358	東京都文京区小日向3-8-9	takeuchi.seibido@nifty.com
田鶴濱 洋一郎/Yohiciro Tatsuruhama	11	180-0002 0422-22-9028	東京都武蔵野市吉祥寺東町2-24-23	y.tatsuruhama-@ezweb.ne.jp
豎川 可奈/Kana Tatekawa		252-0242 042-752-8824	神奈川県相模原市中央区横山5-7-2	kana@tatekawa.com
本多 真理子/Mariko Honda	12	362-0813 048-721-2467	埼玉県北足立郡伊奈町学園2-2	hondamariko822@yahoo.co.jp
堀尾 貞治/Sadaharu Horio		652-0875 078-681-0810	兵庫県神戸市兵庫区浜中町2-2-14	
三木 サチコ/Sachiko Miki	13	252-0141 042-779-9767	神奈川県相模原市緑区相原1-18-15	mocomimimi@yahoo.co.jp
山本 伸樹/Nobuki Yamamoto		974-0152 090-6500-0751	福島県いわき市田人町旅人字前山1	nobuki-y@orchid.plala.or.jp
Thomas von Arx/トーマス・フォン・アルクス [スイス]	14			thomas@arxart.de
Anna Barth/アナ・バート [ドイツ]				annab@freenet.de
Dorothea Fleiss/ドロティア・フレイス [ドイツ]	15			fleissd@yahoo.de
Lee Ok-Nam/イ・オックナム [韓国]				susanbby3007@hotmail.com
李 容旭/Lee Yong Uk [韓国]	16	164-8678 03-5371-2717	東京都中野区本町2-9-5(東京工芸大学芸術学部)	lee@img.t-kougei.ac.jp
李 華英/リ・カエイ [中国]				huaying814@hotmail.co.jp
Sue Hajdu/スー・ハイドゥー [オーストラリア]	17			sue.hajdu@gmail.com
Zorigt Uyanga/ゾリグト・オヤンガ [モンゴル]				uyangazo@yahoo.com



上杉 英  
Suguru Uesugi

風の路/The Wind Path

葭

黄金色のメッシュは吹き抜ける風の音、色、香りに全てを委ねる—自然のままに。

美術造形家

- 1943 東京生まれ
- 2003 国際ビエンナーレ「ユーモア&カリカチュア」(ガブロボ市)
- 2004 日韓現代美術交流'04展(〇美術館 大崎)
- エコロジカルアート 一水一展(東京農工大 小金井市)
- 2004~ 「かたち ふれあい」展(実践女子短大 日野市)
- 「接近展」(府中市立美術館、府中の森、国立市民芸術ホール)
- 日韓交流ドローイング展(ソウル市)
- 2006~ アート in はむら(ゆとろぎ美術館 羽村市)
- 個の波動-2人展(ぎゅらりー由芽 三鷹市)

- 2007 アートストリーム酒蔵展(秩父小鹿野町)
- 2008 台湾国際プリントビエンナーレ(台湾国立博物館)
- ハンガリー国際メールアートビエンナーレ(ブタペスト)
- 2009 誘Art in 桜ヶ丘 現在進行形2(ゆう桜ヶ丘ギャラリー)
- 2010 遊 桜ヶ丘 現在進行形野外展(原峰公園里山の森 多摩市)
- 2011 波浮港現代美術展(伊豆大島 波浮港町)
- 個展(ぎゅらりー由芽 三鷹市)

大矢 りか  
Rica Ohya

www.site-specificart.com

沈黙の夏

壊れた舟  
落ちた橋  
谷間に見捨てられた家

凍れる青空に太陽は輝き  
静寂が谷間にこだまする

今、沈黙の夏

2011年9月 『野外アート展 IX・私の空間』  
オーストリア・プリグリッツ  
木 土 幅11.5m 高6m 奥11m

Silent Summer

Wrecked boat  
Falling down bridge  
Abandoned house left alone in the valley

In the frozen blue sky,  
the sun is shining  
In the valley,  
only silence echoes  
Now that it is silent summer

Sep. 2011 "Kunst in der Landschaft IX Mein  
Raum" Priggitz, AUSTRIA  
wood earth 11.5m(W) 6m(H) 11m (D)



大島には、写真発表の形で参加した。波浮小学校でオープニングセレモニーが行われていたころ、私はオーストリアのPriggitzの広大な牧場で制作していた。そこで制作した作品をこの報告集に載せることをお許し願いたい。

The work in these photos are not for this project.  
In fact, I was in Priggitz, Austria creating the work, when the opening ceremony was held at Habu elementary school.



岡 孝博  
Takahiro Oka

波浮エリア / Habu Area

合金

20kgの合金の塊を持ち歩きながら歩く、ささやか。ささやかな祈る思いを込めて。



- 1970 広島県生まれ  
1996 日本大学藝術学部 美術学科彫刻専攻 卒業  
1998 日本大学大学院 芸術学研究科 博士前期課程 修了  
2011 東京藝術大学大学院 先端芸術表現専攻 研究生 修了

個展

- 1997 A&Dギャラリー (東京)  
2002 なびす画廊 (東京) '04 '06 '07 '10  
2005 exhibit Live&Moris/Lieu-Place (東京)

主なグループ展等

- 1996 第60回記念新制作展 (東京都美術館・国立新美術館)-62, 64-72, 75回展  
2001 彫刻新鋭展2001 (ギャラリーせいほう/東京)

- 2002 日印国交樹立50周年記念事業日本・インドアートシンポジウム (インド)  
2005 接近展 (府中市美術館/東京) '06 '07  
2006 お雛祭り18人展 (庭園ギャラリー 櫻守/埼玉)  
かたちが変わるかたち (川越市立美術館タッチアートコーナー/埼玉)  
2007 Re-Act (広島市現代美術館/広島)  
彫刻の五・七・五 HAIKU sculpture (沖縄県立芸術大学附属芸術資料館/沖縄)  
2008 宮崎国際現代彫刻・空港展 (宮崎空港/宮崎) '09 '10 '11  
かたちが変わるかたち 造形ワークショップ展 (川越市立美術館アートホール/埼玉)  
2009 制作と思考・気配 (広島県立美術館/広島)  
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009 (松之山/新潟)  
取手ART PATH2009 (東京芸術大学大学美術館/茨城)  
和展 (愛知県立芸術大学芸術資料館/愛知)  
2010 広島アートプロジェクトHiroshimArt展(野外芸術センター PPY/広島)  
森林公園アートフェスタ (国営武蔵丘陵森林公園/埼玉) '11



尾形 勝義  
Katsuyoshi Ogata

再生 / Rebirth

光、紙、アルミホイル

現在廃校となった小学校のこの教室では、かつて多くの子供達が一定期間、共に学び・遊び続けてきた。教育とは何なのだろうか？  
遠く東日本の被災した教室を感じながら、すべての子供達の再生を願って制作したインスタレーション。

- 1980 グループ展 (立川市民会館)  
1982 個展 (真木画廊：神田)  
1995 個展 (KIGOMA：国立) 大島に移住  
1996 個展 (アマゾンクラブ：大島)  
1998 個展 (KUBOTA：京橋) モルフォ展 (KUBOTA：京橋)  
1999 個展 (J2ギャラリー：銀座)  
2002 個展 (らび：大島)  
2009 国立国展に「matrix2009010」を出展 (白矢アートスペース：小平)  
デザインフェスタに「シェルターII+」出展 (ビッグサイト)  
2010 ヴァージンフェスタに「海辺のレリーフ100展」出展 (横浜大榎橋)



小林 ナオコ  
Naoko Kobayashi

出現/Emergence

布、レジン、紐など

音に包まれるように…

【グループ展】

- 2009 滝沢アートフィールド (相ノ沢キャンプ場/盛岡市)  
接近展 (富士見台団地/国立市)
- 2010 TAMAアートウォーキング (田んぼ/国立市)  
国際野外の表現展 (東京電機大学/埼玉県比企郡)  
現在進行形野外展 (原峰公園/多摩市)
- 2011 滝沢アートフィールド (相ノ沢キャンプ場/盛岡市)  
現在進行形野外展 (原峰公園/多摩市)

【個展】

- 2010 Emergence -出現- (四谷ランプ坂ギャラリー)
- 2011 標本 (ギャラリー繪Plus/京橋)

URL : <http://www.geocities.jp/ndsgallery/>



坂牛 幹雄

Mikio Sakaushi

木の芽/A Leaf Bud

椿 場所：菊地家の庭

芽の木は椿でもよし

1949 青森県生まれ 埼玉県所沢市在住

【個展】

- 1974 ときわ画廊 (東京) '76
- 1977 真木画廊 (東京) '79 '85 '87 '89 '91 '93 '95
- 2006 SPCギャラリー (東京)

【グループ展】

- 1978 所沢野外展 (埼玉) '80 '81 '82 '83 '84
- 1990 名栗湖野外美術展 '92 '93 '95 '97 '99 その他、野外展多数
- 2009 SPIRIT PRODUCTS 展 SPCギャラリー (東京)
- 2009 現代アーチストセンター展 東京都美術館 (東京)
- 2010 SPIRIT PRODUCTS CONCEPTION SPCギャラリー (東京)
- 2011 SPIRIT PRODUCTS CONCEPTION SPCギャラリー (東京)





坂口 啓子  
Keiko Sakaguchi

アッチ考  
Thinking about the Next World

ガラス、砂、ペンキ 場所：印刷室

祖父、坂口一雄は波浮で生まれ、生涯波浮港・大島を愛しました。

教員として働き、伊豆諸島の塩と生活・伊豆諸島民族考・伊豆諸島の若者組と娘組など著作、晩年柳田国男賞受賞。私は残酷な孫で「じいちゃん、死ぬの、こわい？」と聞いたことがあります。

祖父は「いったとこない所へいくのですから、こわいですよ」と、静かに答えました。

ずうっと向こうの目に見えない彼方にアッチの意味がふくまれている祖父のアッチ山考の文からタイトルをつけました。シバハナ（紫陽花）で用をたした昔・トイレットペーパーの今。アッチとコッチがいたりきたりした作品です。

- 1951 東京都調布市生まれ
- 1977 多摩美術大学大学院油画修了
- 1989 ニューヨーク大学大学院スタジオアート修了
- 2006 文化庁新進芸術家在外研修特別派遣NYアーバングラス
- 2008 東京都大島町波浮港在住

- 【個展】2000年以後
- 2010 フィルスベース（広島市）
  - 2003 自宅展（日野市）
  - 2001 淡路町画廊（千代田区）

- 【グループ展】抜粋
- 2011 多摩現代作家小品展 ギャラリー街角（国立市）
  - 東日本大震災チャリティー展 古春堂ギャラリー（甲府市）
  - 2010 「かたち・ふれあい」展 実践女子短期大学
  - 遊・桜ヶ丘 現代進行形 野外展（多摩市）
  - 2009 第2回日米国際作家交流展（東京都美術館・LAアートコア）
  - SPIRITS PRODUCTS 精神と物質 坂牛幹雄 坂口啓子 SPC GALLERY（中央区）
  - 2006 HAKO展 K's Gallery（中央区）
  - 2002 第5回岡本太郎記念現代芸術大賞展 川崎市岡本太郎美術館

柴田 智明  
Tomoaki Shibata

波浮小学校図書室  
Residence in Habu

日本画材、キャンバス

図書室をアトリエとして使っています。

伊豆の隅子を読んだ柴田は旅芸人を想い、トランクで画具を運び“通い画室”として波浮小図書室を使用しました。

柴田にとって“隠れ家的な邪魔者のいない通い画室”となった図書室は、小さな生徒がいた形跡が懐かしくメルヘンな空間でした。

柴田は3.11以降続く緊張の中、夜風のこちよさを求め森に亡命する心持で竹芝と大島を何度も往復し断続的な滞在制作を行いました。

画家の何かを掴もうと継続的に苦悶するシリアスで文化的に豊かな風景が展開されました。



- 2005 武蔵野美術大学造形学部日本画学科
- 2006 個展 PART 1 Gallery Q
- 2006 個展 PART 2 Gallery Q
- 2006 第1回ビエンナーレうしく
- 2007 個展 アートスペース羅針盤
- 2007 個展 Gallery Q
- 2008 個展 Gallery Q
- 2008 菅 盾彦 大賞展 大阪タカシマヤ
- 2009 Crosscurrent #2
- 2010 個展 Gallery Q
- 2010 トーキョーワンダーシード2010
- 2010 本島アーティストレジデンス 食とアートのプロジェクト「アーティストイン塩飽本島〜晴れに耕す、そしてアート」ギャラリーアルテ 丸亀市
- 2011 上野の森美術大賞展





**島村 宗充**  
Munemitsu Shimamura

**虹のくもひとで**

綿ヒモ (φ 0.5cm, 205m), 塗料

人の気配が消え、すっかり水のなくなったプールで、くもひとでは、ちょっと遊んでみました。



1966年、東京生まれ。  
1989年、多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。  
以後、平面作品やインスタレーション作品を、画廊での個展を中心にしながら、様々なグループ展、野外展交流展などで発表を重ねる。

個展は、ギャラリーなつか ('89)、ギャラリーサージ ('90, '94)、ギャラリー檜 ('98, '99, '02~'06, '10, '11)、SPCギャラリー ('04, '06) など、計19回。  
アーティスト・イン・レジデンスはパリ ('95)、京都 ('96)、塩竈 ('01)、我孫子 ('08)、ルーマニア ('10) と今回の大島。

様々な地域から、色々なアーティストが段々とある場所集って来ては、一時の時間を共有しながらも、それぞれの体験と時間を過ごし、やがて一人一人が段々とそれぞれの場所へと帰って行く...、そんな経緯にアーティスト・イン・レジデンスの面白さがあると感じている。



**菅沼 稔**  
Minoru Suganuma

**No. 3**

Oil on Canvas 180cm (H) x 360cm (W)

今までもそしてこれからもそうですが、見ていてワクワクするような絵画を、絵画の大きな要素である【色彩】の力を借りて描きたいと思います。まだまだ絵画には大きな発信力が残されていると思われまます。

- 1974 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
- 1976 東京藝術大学大学院美術研究科版画専攻修了
- 2000 第29回現代日本美術展、横浜美術館賞 (東京都美術館、京都市美術館)
- 2001~02 文化庁派遣芸術家在外研修員として欧州滞在 (主にスペイン)
- 2004 開館15周年記念「イメージをめぐる冒険」展 (横浜美術館)
- 2005 日韓友情05年記念・日韓現代美術展「環流」(ソウルSPギャラリー、大谷資料館他)
- 2007 「DOMANI明日展」(文化庁主催、損保ジャパン東郷青児美術館)
- 2008 パラトバーバン国際版画ビエンナーレ展、名誉賞受賞 (インド、ローバンカール美術館)
- 2009 ワールドアート シンポジウム インデルフトに参加 (オランダ)
- 2010 日越現代美術展 (ベトナム) 他、個展多数開催

URL: <http://members2.jcom.home.ne.jp/minosuga/>



菅原 史也  
Fumiya Sugawara

水を讀える

ロープ・造花・椿の葉

水を空へ返す。草も木も、人もまた、同じ。

東京造形大学デザイン科卒業、同研究課程修了

滝沢アートフィールド 2003・2005・2007・2009・2011 出品  
グループ展「生成と代謝」出品 (gineta・2005)  
個展 (あるびいの銀花ギャラリー・2009)  
個展 (gineta・2009)

高島 芳幸  
Yoshiyuki Takashima

旧波浮小を見る  
Looking at the Old Habu Elementary School

旧波浮小学校を今一度見てみよう。



関係 Aug. 2011 - 旧基の丸の屋根裏を確認する一  
場所：旧基の丸邸



1953年 茨城県生まれ

【主な個展】

- 2011 「日記 2011.3.11-9.11」(ギャラリー彩園子/岩手) '98 '03
- 2010 「用意されている絵画-イメージすること/イメージされること-」(ギャラリー現/東京) '01 '05 '07 '09
- 2008 「用意されている絵画」(ギャラリー伝・Den.ST/東京) '89 '92 '99 '01
- 2006 「生成する場-存在から関係へ-」(The Art Stage POLRIS/神奈川)
- 1999 「関係 July.1999」(真木画廊/東京) '88 '89 '93 '95 '97
- 1998 「解放された視野・II '98-高島芳幸展」(ルナミ画廊/東京) '96
- 1995 「表現の発生する場」(KIM NAE HYUN ART GALLERY/ソウル・韓国)

【主なグループ展】(1999年以降)

- 2011 中之条ビエンナーレ2011 (旧蟻川分校/群馬) '09
- 2009 まつしろ現代美術フェスティバル2009 (旧松代藩文武館/長野)
- ART OCTAIL 2009 in 笠間 (空き店舗/茨城) '06
- 2007 第10回 我孫子野外美術展 (我孫子市・吉利根の森/千葉) '02
- 2005 日韓現代美術展「環流」(大谷地下資料館、現代史資料館「まほろば」、他)
- 2004 眼差しの東洋・手の記憶-沖縄からの発信」(旧国頭村立小・中学校/沖縄)
- 2003 平面と立体の間-インスタレーション-高島芳幸 (うらわ美術館/埼玉)
- 2000-1999 国際現代美術展「波動1999-2000」(光州市立美術館/韓国)



高田 芳樹  
Yoshiki Takata

追憶のカラーチャート  
Memory of Color Chart

アーカイブ/Archives

ビデオモニター、プラスチックバッグ、  
紐 その他



1951 東京都大島町元町生まれ  
個展23回

www.y-takata.com

2011 我孫子国際野外美術展 (我孫子市)  
個展 (彩園子/盛岡市)  
Folwark 国際シンポジウム (ムシヤナ・ドルナ/ポーランド)  
Jara Island Baggat Art Exhibition-Jara Island Gapyeong County (韓国)  
2010 日越現代美術展「8+8」 in HCMC  
第10回 CATファイナル展 (Contemporary Art Trial)  
'Art Under the Volcano' (last December in Yogyakarta, Indonesia)  
2009 CAF・ネビュラ展 埼玉県立近代美術館 (埼玉県/さいたま市)  
PARAZA国際シンポジウム (パラザ/フランス)  
滝沢アートフィールド2009 相ノ沢キャンプ場 (岩手県/滝沢村)  
2008 あるってアート 2008, Koedo Kawagoe LIVE ART 2008 旧川越織物市場 (埼玉県/川越市)  
リサイクル アート展 World Art Delft (デルフト/オランダ)  
現代の掛け軸展 2008年CAF/Nラトビア展-Museum of Foreign Art (リガ/ラトビア)  
LAAYOUNE国際シンポジウム・展覧会-パレス・コンプレクス西サハラ (ライヨーン市/モロッコ)

竹内 博  
Hiroshi Takeuchi

息吹/Breath

ラップ、ラーマド

自分自身の息吹だけではなく、波浮港の息吹。  
背中をおされてつくった作品です。

1949年東京都生まれ・現在東京都文京区在住

【個展】	【グループ展】
田村画廊	浜松野外美術展 (静岡県)
真木画廊	現場展 (福島)
ときわ画廊	蔵王野外美術展 (山形県)
田村画廊	名栗湖野外美術展 (埼玉県)
駒井画廊	木曾福島野外美術展 (長野県)
ルミエール画廊	美術計画展 (宮城県)
福島県霊山町のたんぼ	ゴミと美術家達展 (東京都)
SPCギャラリー	ART BASE NULL 作家交流展 (大阪府)
	現代アーティストセンター展 (東京)
	千早赤阪村野外美術展 (大阪)
	遊 桜ヶ丘 現在進行形野外展 (東京)
	真木画廊
	田村画廊
	SPCギャラリー





田鶴濱 洋一郎  
Yohichiro Tatsuruhama

和紙、墨

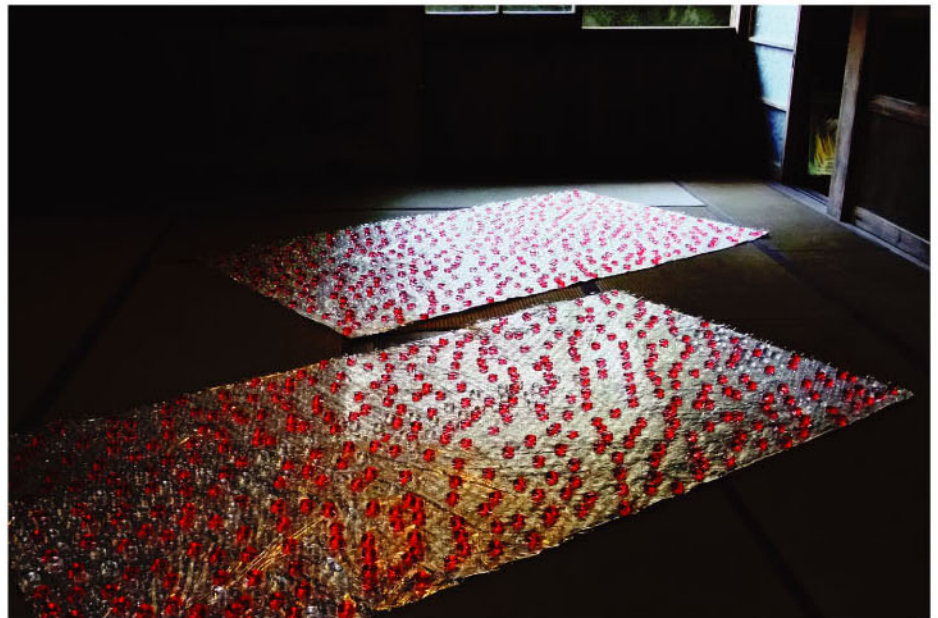
- 1949 栃木県生まれ
- 2001 第7回キャッピング展 (横浜)
- 2002 日韓現代美術展—眼差しの東洋・手の記憶—筑豊からの発信 (田川)
- 2003 四人の日本人展 (ベトナムホーチミン)
- 2004 眼差しの東洋・手の記憶—沖縄からの発信、個展 (ギャラリー浦野)
- 2005 コンバージェンス展 (ベトナム)  
Portes, ouvertes, 2005 (パリ)
- 2006 夏のトライアングル (ぎやらりー由芽)
- 2007 個展 kyohan six gallery (益子) 土の形  
墨のかたち (ぎやらりー由芽)
- 2008 ビエンナーレうしく  
第4回トリエンナーレ豊橋星野眞吾賞展  
ビエンナーレKUMAMOTO IV (熊本県文化協会賞)  
Sea & 遊 ギャラリーイデム (釜山)
- 2009 個展ギャラリー山口、個展 (ぎやらりー由芽)
- 2010 静かなところ (ぎやらりー由芽)  
日越 現代美術展 8+8 (ベトナム・ホーチミン市美術館)  
個展 (ぎやらりー由芽)、熊本ビエンナーレ (熊本県立美術館)
- 2011 MNEMOSYNING (TIMISOARA 美術館・ルーマニア)  
熊本ビエンナーレ (熊本県立美術館)  
星野眞吾賞展 (豊橋市美術博物館)  
個展 (みゆき画廊)

豎川 可奈  
Kana Tatekawa

カメラア・ジャポニカ  
Camellia Japonica

気泡緩衝材、アルミ箔、水、食紅

場所：旧甚の丸邸



東京都大島町、コンビニやチェーン店の存在しない東京の街。高齢化、過疎化の進む街。

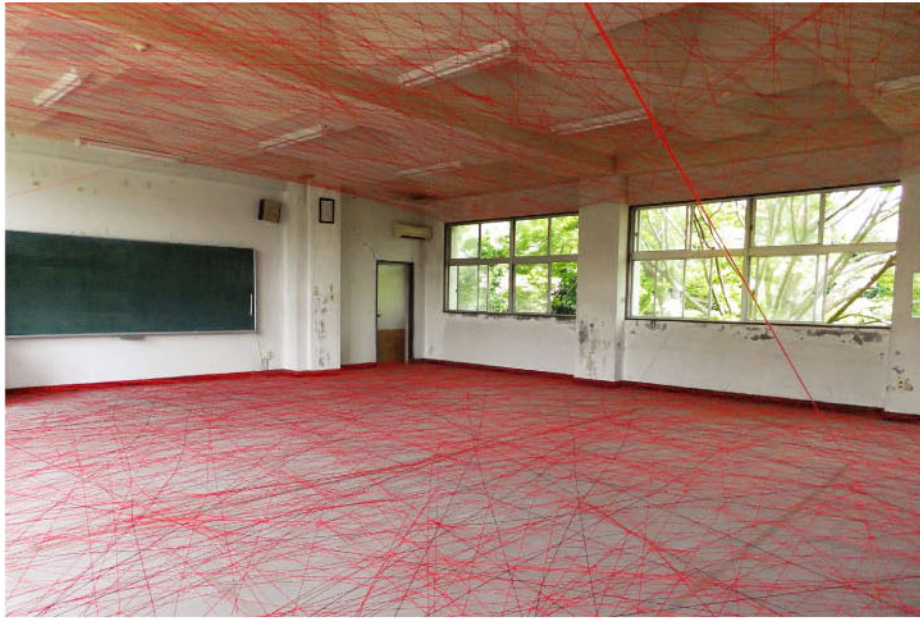
太平洋に開かれた小さな入り江を持つ東京の街。

明治、大正、昭和初期に栄華を極め、文豪たちが訪れた街、波浮港。

華やかな時代に建てられた古き屋敷に、現代社会のプラスチックを持ち込んだ。昔も今も変らぬこの島の真っ赤な花の椿を咲かせて。

1993~2007 アメリカ合衆国在住  
1986~1987 フランス在住

[www.tatekawa.com](http://www.tatekawa.com)



本多 真理子  
Mariko Honda

Red Line Connection #18  
～風とともに～/With the Wind

毛糸

一本の赤い糸が面になり、風に揺れる。  
その中に入って感じるごと。

'92 東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

【個展】

'91よりルナミ画廊、秋山画廊、エル・ポエタ、TOKI Art Space、GALERIE SOL、RAMP Gallery、Weissraum、ぎやらりー由芽、ギャラリー健

【グループ展】

アートシンポジウム '89より日本、リトアニア、韓国、オーストリア、ルーマニア、ドイツ、タイ

【パブリックコレクション】

北原脳神経外科脳ドックセンター施設 エントランス壁画  
新明電機社屋 創業者家族像、二代目家族像



堀尾 貞治  
Sadaharu Horio

あたりまえのこと (白い四角い空気)

紙、墨汁、糊

あたりまえのことというのはみえない空  
気のことをいっています。

この部屋の空気をみえやすくする為  
に白い四角い紙を部屋一面に連動させて新  
しい空気をみようとするものです。

- 1939 神戸市に生まれる
- 2002 堀尾貞治あたりまえのこと 芦屋市立美術館/兵庫県 連続38日のパフォーマンス
- 2003 未来予想図 私の人生劇場/兵庫県立美術館
- 2004 「まち」がミュージアム 2004/山梨県富士吉田市
- 2005 横浜トリエンナーレ 連続82日のパフォーマンス
- 2006 マイ・ルール展 ボーダレス・アートギャラリーNO-MA/近江八幡
- 2007 呼応する精神、カールトン大学/カナダ・オタワ
- 2008 第1回世界文化遺産 姫路城現代美術ビエンナーレ2008年展
- 2009 In Finitum Palazzo Fortuny, Venice/イタリア・ヴェネツィア
- 2010 第18回国際丹南アートフェスティバル/越前市民ホール
- 2011 Frankfurter Positionen/ドイツ・フランクフルト ATARIMAE-NO-KOTO

三木 サチコ  
Sachiko Miki

lighthouse

FRP・塗料 制作年2011

人間に興味があります。人間の感情に興味があります。  
自分の中の、自分にもわからない部分に興味があります。  
作品をつくることで、そうした事を外側から  
見ることができるのではないのでしょうか。



nut

FRP・塗料  
制作年2011

- 2001 東京造形大学(彫刻)研究生 修了  
【個展】
- 2009 「プレゼントは雨の後ろ」 CASHI, 東京
- 2008 「震度1の微震」 CASHI, 東京
- 2007 「Rainbow」 田中画廊, 東京  
【グループ展】
- 2011 「Group Show III」 CASHI, 東京  
「39ART 第4回 ネズミ講展」 RED CUBE, 東京
- 2009 「愛と笑いと涙を」 CASHI, 東京  
「第2回日米国際作家交流展-Crosscurrent-」 東京都美術館, 東京  
「Girls 美 Ambitious」 アトリエムギャラリー, 札幌
- 2008 「マキイセレクトション2×4 シニカルヒステリー」  
マキイマサルファインアーツ, 東京  
「オープンスタジオ 仕事部屋・探訪展」 相模原, 神奈川  
「出石芸術百貨街08」 出石町, 岡山
- 2007 「花みずぎ街角誰でもアーティストin深川」 善徳寺, 清澄白河  
「暑中美舞展」 遊美工房, 岡山  
「中之条ビエンナーレ2007」 中之条, 群馬
- 2006 「7thSICF」 青山スパイラル, 東京  
「長野アート万博」 善光寺西之門よしのや, 長野  
「小さな彫刻展」 日本都市センター緑道ギャラリー, 東京  
「平行五辺形」 田中画廊, 東京
- 2005 「東京コンペ」 丸の内, 東京
- 2004 「5thSICF」 青山スパイラル, 東京  
「長野アート万博」 長野駅コンコース, 長野
- 1999 「IN-OUT」 代々木アートギャラリー, 東京
- 1998 「7p展」 代々木アートギャラリー, 東京
- 1997 「今昔ambience」 元料亭三田, 東京
- 1996 「4人展」 淡路町画廊, 東京  
「実験のための1つの実験」 代々木アートギャラリー, 東京



山本 伸樹  
Nobuki Yamamoto

精霊のいる処  
The Place Where Spirits Reside

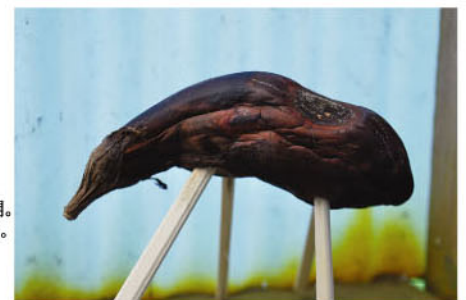
新聞紙、糊、ウレタンニス

福島県のいわき市に住んでいます。  
大震災・津波・原発事故。  
今、試されている気がします。

現代美術家 1956年福島県いわき市生まれ  
1984年東京芸術大学大学院修了

以降ギャラリーK、真木画廊、SPCギャラリー、いわき市立美術館等個展多数。

1988年「大谷地下美術展」、1989年「現場89~90展」等野外美術展に参加。  
「檜枝岐パフォーマンスフェスティバル」等パフォーマンスにも関わり、リープル等と日韓交流も展開。  
ベルギーをはじめ、2004年トルコAKBANKカルチャーセンター、イランのテヘラン現代美術館招待。  
2010年フライミュージウムベルリンで「TO BE東京+ベルリンコミュニケーション展」参加。  
「会津漆の芸術祭」、「福島ビエンナーレ」参加。  
2011年HIGURE17-15-CAS、千年画廊にて個展。





トーマス ファン アルクス 【スイス】  
Thomas von Arx

価値 事実 / Values and Facts

漁網、布

価値と事実の会  
第一応接室 大島オフィス  
言論の自由空間

For the exhibition at Izu Oshima I was planing a lot perhaps too much, and I even found new things to do.  
- My main project, the writing on the wall, was virtually designed but finally I could finish it in a realistic dimension thanks to all the people, that helped me and pushed me on sometimes.  
- The woodcut-workshop "The Fisherman and his Wife" was quite successful - by chance and special help from Ogata Sensei. I was happy to use the school as a school again, and it gave me the hope to use this now open spaces as a school for art, movement and perhaps environmental education.  
- The performances with Anna Barth have been the easiest part they just happened like natural; and to have my first values and Facts office in Tokyo was satisfying, too.  
- To be part of a symposium was my feeling during the preparation of the show. Cooking, discussing and to celebrate with so many different personalities was enriching. I really hope, the trustees are able to activate next year the same energy and let follow a second suite on than two art islands in Tokyo, and I am looking forward to the shuttle-boat we will be able to use as often as possible.

Since the "Wende" (reunification of Germany) working in "Mitte" the new cultural center of Berlin as an artist and technician for KunstWerke Berlin, and other galleries and art associations; own gallery "Arx art".

Since 2002 collaboration with the dancer Anna Barth.

2009 group show at the figure art space in Tokyo, organized by Tatsumi Orimoto.

2010 group show "To-Be" at the "Freies Museum Berlin" with artists from Tokyo & Berlin.

2011 Izu-Oshima.

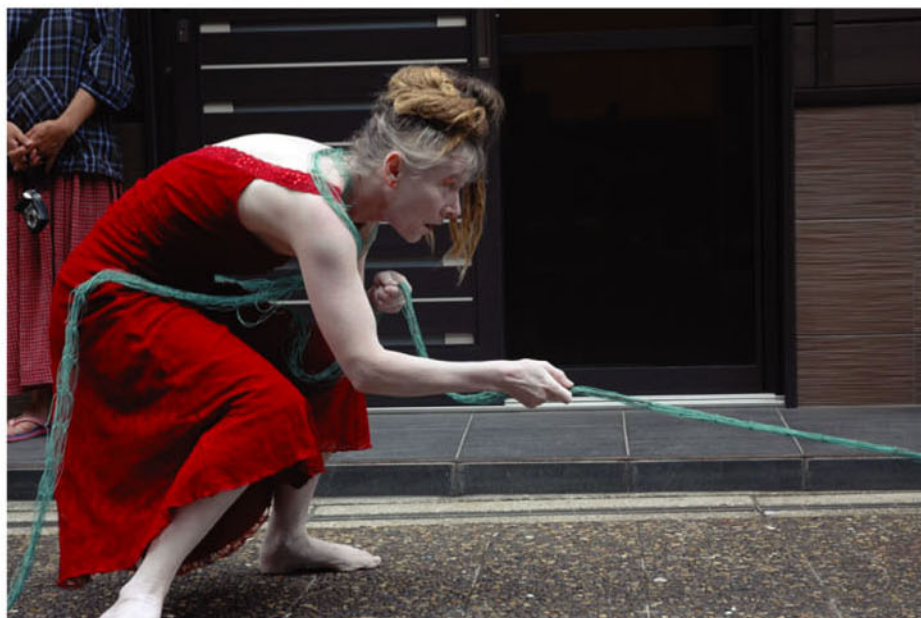
2012 gardening and folk-art at the Chateau de Pitray near Bordeaux, France.

アナ バート 【ドイツ】  
Anna Barth

High Noon over Minato

Butoh / 舞踏

Fisherman's net I took to town...  
My soul entangled in sharp edges,  
casting for spirits.  
Swift and delicate rain quenched  
the heat of noon.



Anna Barth, freelance dancer and choreographer. Lives and works in Berlin. Received her Modern Dance education at the Alwin Nikolais & Murray Louis Dance Lab in New York. 1994 she became student to the renowned co-founder and master of Butoh Dance Kazuo Ohno and his son Yoshito Ohno in Japan. At the intersection of Improvisation and Butoh Dance her research focuses since many years on the memory of the body. Barth works as soloist as well as in duo and group constellations, her experimental projects with artists from various art-fields have been realized through a variety of venues in New York, Japan and Europe. For her creative work she has received the "Pro-Art-Foundation Prize" in New York. Anna Barth is artistic director of the Berlin based *DanceArt Laboratory* which she founded in 2004. She teaches in and outside of Germany.

No concept to arrive with was my only parameter when we reached the beautiful island of Izu-Oshima in Japan. In the aftermath of Fukushima, I asked myself - what can art do now? What kind of art do we need now? And how can art endure in the face of such serious disturbance? I sensed that this encounter would be a test of all of us as artists.





ドロティア フレイス【ドイツ】  
Dorothea Fleiss

14枚のカード／ WARSZAWA in Poland

ポーランド国内のホテルのビジネスカードに  
アクリル絵の具

The Life in itself is a way. We are born in a nest... and we end up in another's nest.  
人生それ自体が道。わたしたちは巣の中で生まれた...そしてほかの巣の中で終える。



Fine Arts Education:

1996 - 2003: The Art Institute, Filderstadt, Germany  
The Art Institute, Stuttgart, Germany

German Representative / artist in resident selection:

- University of Massachusetts Amherst, USA
- International Artists Colony of Debrecen, Hungary
- International Artists Residency Saigon, Vietnam
- HABU harbor, Izu- Oshima in Tokyo, Japan
- E.U. Cultural Council Grant, Amman, Jordan
- The Salzburg Academy, Austria
- "International Artist Colony" Baia - Mare, Romania

Biennales since 1998 selection:

- 2012: Biennale de Havana, Cuba
- 2009: Incheon Women Artists' Biennale, Incheon, South Korea
- 2008: 8. Biennale DakArt, Senegal, Africa
- 2007: 7th International Biennale of Cuenca, Ecuador
- 2006: 10th International Biennale of CAIRO, Egypt
- 2005: Biennale 3000 San Paolo Brazil  
XI Biennale Guadalupe Mexico

More than 60 of Personal Exhibitions since 1996

Participation on more than 180 group exhibition since 1996

Works in private and public collections South America, North America, Africa, Asia, Australia, Europe

イ オックナム【韓国】  
Lee Ok-Nam

波形／ WAVE

新聞紙、韓紙、アクリル

場所：旧基の丸低座敷

新聞紙と韓国古来の紙を使って一番基本的で根源的形態の円をつくり出す。

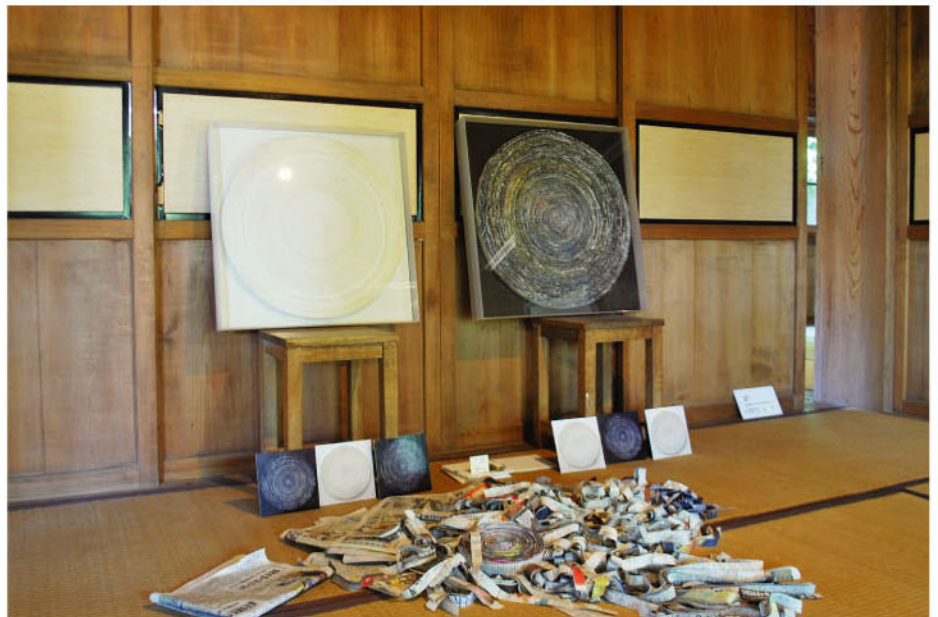
1953 born in Chun-cheon  
B.F.C. in Dong-Eui University

【Solo Exhibition】

- 2011 Gallery Yume, Tokyo
- 2001 Gallery Idm, Busan
- 2008 Hana Bank, Busan
- 2007 Shin Young Band, Busan

【Group Exhibition】

- 2001 Group Yeso, Busan City hall, Busan
- 2009 Busan international Exchange Exhibition, Vancouver
- 2010~2005 Good Paintings Exhibition Kyung-Sung University Exhibition
- 2006 Tokyo Art 100 artist invitation Exhibition, Tokyo



李容旭【韓国】  
Lee Yong Uk

手／Hands

映像、布、木（設置サイズ可変）

痛みつける手も私の手。あなたの手は大丈夫？

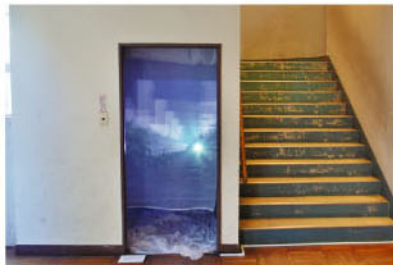
韓国、烏山生まれ。1990 年来日。CG ディレクタを経て映像アートの世界へ。  
2001 年以後映像作品、立体造形、平面、インスタレーション、パフォーマンスなど幅広い範囲において表現活動を行う。最近はクロスメディアの概念をベースに様々な表現者との協同による創作の機会が増えている。日本映像学会クロスメディア研究会代表。東京工芸大学芸術学部映像学科准教授。

Lee Yong Uk is Associate Professor at the College of Art, Tokyo Polytechnic University. He completed his Doctoral course at the College of Art Nihon University. His research interests include Visual Culture and Creativity. He also creates base of the imaging art.

個展  
2010「縦軸運動研究 No.1- 黒田オサム氏の場合」SAKuRA GALLERY 他 10 回以上  
グループ展  
2011 Exhibition ACKid2011 キッド・アイラック・アート・ホール 3F  
アネックス・ギャラリー 他 120 回以上  
他企画、国際会議主催、論文多数。

そして道はまたつづく  
And, the Road Continues, too.

踊り手黒田オサムと大島の旅。  
歩みは 80 を過ぎ、島の精霊を  
背負い空高く舞い上がる。



李華英【中国】  
Lee Hwa Yeong

無題／Untitled

ミックストメディア

1980 中国吉林省に生まれる  
2011 東京学芸大学大学院卒

2002 中国東北版画展  
2004 2004年韓国アジア青年画家展  
2004 中国教員作品展 優秀賞  
2004 第10回中国全国美術作品展  
中国神州博物館展示  
2005 韓国グループ展多数  
2009 誘Art inn 桜ヶ丘一現在行形 2  
2010 Tama Art Walking  
2011 現在行形野外展  
2011 個展 K's Gallery (銀座)



スー・ハイドゥー【オーストラリア】  
Sue Hajdu

ひとさじ・ぶろじえくと  
Hitosaji Project



「村で一人さまよう異邦人」の第2弾として「ひとさじ・ぶろじえくと」は、波浮のコミュニティと料理を中心にしたコミュニケーション・アートプロジェクトである。「村で一人さまよう異邦人」は、小さな町や村でコミュニティにさりげなく潜入するシリーズとして続行している。Facebookを展示スペースと捉えて、プロジェクトの近況を随時公開していく。

FACEBOOK: sue hajdu projects 又は stranger in the village を検索。

"Hitosaji Project", a relational project involving cooking and the Habu community, is the second edition of "Stranger in the Village", a series of delicate infiltrations into the social relations of small places. Please visit FACEBOOK: sue hajdu projects & stranger in the village



スー・ハイドゥー：シドニー大学にて1991年日本学の学士号、2001年同大学院にて視覚芸術の修士号を取得。常に遊び心を忘れずに、コミュニティや人との繋がりに挑戦するスタイルのアートプロジェクトを世界各地で発表。

Sue Hajdu: Master's, Visual Art, 2001 & B.A., Japanese studies, 1991, University of Sydney. Working primarily in Vietnam and Japan, Hajdu creates art projects that delve into community and social relationships or play in public space.

www.suehajdu.com



ゾリグト オヤンガ【モンゴル】  
Zorig Uyanga

高原の夜明け／Dawn of the Plateau  
アクアチント 49cm × 65cm



モンゴル、ウランバートル出身  
モンゴル国立教育大学 勤務  
モンゴル・グラフィック・アーティスト協会 会長

1989 レービン・ファイン・アートアカデミー（ロシア、サンクト・ペテルブルグ市）卒業  
1989年より現在までブルガリア、英国、ポーランド、チェコ、ロシア、など20カ国でグループ展や個展を開く。

2010 個展「バレー」オペラ・バレー劇場（ウランバートル市）  
2010 レービン・アカデミー卒業生たちの展覧会 ギャラリーUMA（ウランバートル市）  
2011 グラフィック・アーティスト達の展覧会（ウランバートル市）

2003 '04 '06：モンゴリアン・ベスト・アーティスト・ザ・イエア 賞を受賞

ワークショップ/パフォーマンス

おもしろいで！ハプニング・アート by 堀尾 貞治 Aug. 11 Thu.



舞踏  
「身体表現を楽しもう！」  
by アナ・バート  
Aug. 20 Sat. ~ 21 Sun.

版画とレリーフ「昔話を版画にしよう！」  
by トーマス・フォン・アルクス  
Aug. 19 Fri. ~ 21 Sun.



映像制作  
「みーつけ大島、さがせ今を!!」  
by 李 容旭 & 東京工芸大学の学生  
Aug. 22 Mon. ~ 24 Wed.





## WORKSHOP / PERFORMANCE



©LEEYO

## 実行委員会活動記録抜粋

- 2009年夏 波浮現代現代展構想が具体的になる。  
 2010年12月15日 現地施設調査及び打ち合わせ  
 企画書等の草案／ブログ立ち上げ  
 12/30 発起人打ち合わせ／招待作家打診  
 2011年1月5日 事務局長 教育委員会打診  
 1/25 施設使用願い提出  
 2月中旬 現地打ち合わせ／アートアイランド口座開設  
 2/16 第1回参加要請者への都内説明会  
 23 第2回参加要請者への都内説明会  
 (2月末で13人の参加者決定)  
 3/08 韓国文化院後援申請  
 10 東海汽船本社及び東京七島新聞社など訪問  
 11 大震災  
 28 韓国文化院より、名義使用許可が許諾される。  
 4/07 第1回現地見学会 (波浮小学校内部見学、測量)  
 12 大島町後援承認される。  
 5/13 第2回現地見学会  
 6/01 第一次フライヤー到着  
 中旬 関係機関後援等依頼及び協賛ギャラリーを募る。  
 10 第3回現地見学会  
 15 甚の丸、使用許可おける。  
 23 バッジ届く  
 7/02 旧西川寿司及び旧三崎屋使用許可おける。  
 05 作家準備来島 (17日、8月2日にも事前に来島)  
 10 第2次フライヤー到着  
 19 フライヤー島内配布  
 25 旧波浮小学校事務所開設準備開始  
 インターネット設営  
 29 最初の作家来島／宿泊施設、事務局清掃等  
 8/05 準備期間開始  
 11 パフォーマンス (堀尾)  
 12 午前までに設置完了／午後オープンセレモニー  
 参加作家全員集合する。  
 13 初日／第1回作家と歩く会  
 ワークショップ (トーマス、アナ、李)  
 パフォーマンス (アナ)  
 27 第3回作家と歩く会  
 28 最終日／見学750名を突破  
 30 ほぼ撤収完了  
 9/09 四谷報告展開始  
 18 報告展終了



Opening  
Performances  
Aug. 12 Fri.

アナ・パート／堀尾 貞治



アナ・パート  
トーマス・フォン・アルクス

Aug. 13 Sat.  
Full Moon over Minato



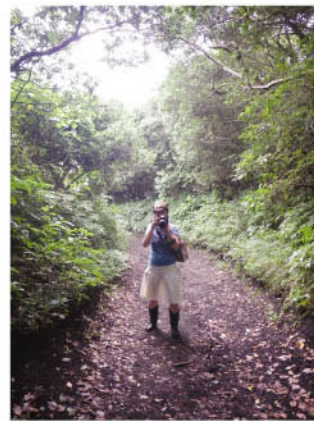
Aug. 20 Sat.  
High Noon over Minato



# ▶ ALBUM



... in preparation





Artist Talk and  
 Aug. 13 Sat. Guide Tour  
 Aug. 20 Sat., 20 Sat.



©LEEYO



©LEEYO



©LEEYO



©LEEYO



©LEEYO





寄贈作品と町長



Thanks







THE REPORT  
 2011 波浮港現代美術展  
**やりましたよ展**  
 ランプ坂ギャラリー【東京/四谷】  
 September 9 ~ 18, 2011



## 感謝の言葉 ～ごあいさつ～

伊豆大島で美術展を開く一空想が実現しました。

8月の暑い日々、難解といわれる現代美術展に島内外から足を運び作品を見てくださった多くの方々へ。

また展示場所・空間・土地の使用を許可してくださった大島町（町長室／教育委員会／観光商工課／波浮港出張所）、大島支庁、NPO CCAA 市民の芸術活動推進委員会、波浮の港を愛する会、浜の店舗、個々の方々へ、そしてこの展覧会を協賛してくださった各関係機関、各画廊、各大学、またワークショップ（体験型講座）を開いた3人のアーティストへ、参加していただいた方々、映像技術を支えた東京工芸大学11人の学生、様々なかたちでボランティア活動をしていただいた皆様へ深く感謝の意を表します。

呼びかけに応じ国内外から訪れた作家の皆様、その31の作品が発信したメッセージは見てくださった方々へ強い記憶として残ると確信しています。つくる人、みる人、ささえる人で展覧会は成り立ちます。波浮港現代美術展はすべて無償の行為でした。

半年が経ち、今は三原山に積雪。たえず変動する現代美術展を強い波と風に影響される伊豆大島で開催した意義は深く、心からお礼を申し上げます。

2012年2月 事務局長 坂口啓子



## 今後へ向けて

波浮港現代美術展が終了して数ヶ月を経った今、思うのは大島で様々な形で協力してくださった方々の事である。当初はプレ展としてささやかに発表する予定だった此の展覧会も「地域の中で行う展覧会」という事に焦点を当てて活動した結果、展示場所も増え、参加者数も多くなった。そのため特に波浮港の方々には細々した事から大事まで大変お世話になった。

結果的には、力ある参加作家の魅力もあいまってすばらしい展示が出来たものと考えている。800人を超える方々が見学に訪れた事もうれしい事であった。

しかし、なにがしらの経験のある運営スタッフにせよ参加者にせよ、離島でのこのような展覧会は今までの経験とはかけ離れたものだった。そのため準備過程より大小の問題につきあつた。

まずは私たちのアート活動を事前には伝えにくい事、宿泊先の確保、展示場所の決定までの作業や運搬、海外作家との連絡など私たちの問題。そして町長選挙や行政機関との連絡調整、さらに準備期間中に起こった大震災など外的な問題。

震災前と後では内外の参加者も受け入れ側も状況が一変した。海外作家の参加キャンセルや予定していた各国大使館への後援申請も棚上げにした。流動的な状況の中で、各方面との調整が後手に回り、ワークショップへの参加呼びかけなどが遅れた事で、学生達の参加が少なかったのは残念だった。

今後は、今回の経験を生かす事で「生きた美術展」を目指して行きたい。「生きた美術展」とは、訪れる人々が単に作品を鑑賞する事ではなく、作品の置かれた場所そのものに意識を及ぼす事である。場所（波浮であり、大島であり、伊豆諸島）を意識する事はその地の文化を意識する事に繋がる。参加する作家も制作過程の中で地域の人々と繋がりを持ち此の地の文化に触れることが、「生きた展覧会」となるだろう。

そのために、開催時期や期間・規模・各機関との連絡調整・協賛、ボランティアとの連携と協働・資金調達・広報活動など考えるべき事は多い。

ただ数字が示すように在島の一割もの人々が見学に訪れ、私の知る限り、参加作家の多くがこの地での制作や発表を評価していることは、この種の試みが島の生活に何かしらの活力を与えうる可能性を示し、次回の実施を前向きに考える十分な展覧会であったと言える。

そして、それは現代美術の持つ力であり、この離島という中で培われた文化の魅力と出会った時により発揮されたと思いたい。

次回へ向けて、今一番必要なことは、実施を仮定とした忌憚なき意見をかわす事であろう。

実行委員長 高田芳樹



## メディア（記録／記事等）

美術教育雑誌「美育文化」公益法人 美育文化協会  
2011年11月1日発行  
特集「子どもはアートで世界をつくる」  
2011波浮港現代美術展参加報告(現代アートがところをひらく)  
尾形 勝義 著 6ページ



大島町広報誌 広報おしま 2011年9月号

フリーペーパー「12class」8月1日号 発行人 千葉れみ  
坂口啓子事務局長インタビュー

南海タイムス 2011年9月12日号  
大島の廃校で現代美術展「国内外のアーティスト29人が参加」

「インターネット掲載」は、波浮現代美術展で検索可能  
伊豆大島の風景(リアルタイム)など多数



東京七島新聞  
「波浮港現代美術展」  
10月28日掲載  
美術展事務局長 坂口啓子

## 東京の島々を結ぶアート航路開発委員会の概要

- 【目的】
- 1) 東京の島々で国際美術展覧会をすること
  - 2) 各島独自の美術活動を支援し、日本および世界に紹介すること
  - 3) 国際展を通して、海外作家と島の人々との交流を図ること
  - 4) 同、海外作家を通して国際理解教育活動に協力すること
  - 5) 展覧会を通して地域の文化の向上に寄与すること

### 【組織】

2011年 役員 委員長 副委員長 事務局長 監事2名  
作家会員 (2011 波浮港現代美術展出品作家)  
一般会員 (アートアイランズ協賛会員)  
協賛会員 (2011年波浮港現代美術展協賛団体、ギャラリー等)



世界と日本、本州と島、島と島、自然と人間、自然とアート、アートと文明、貴方と私、対象と被対象を表現しています。  
東京の島々を結ぶアート航路開発委員会は、現代美術を通じて東京の島々を世界に発信していきます。

## 編集後記



2011年は3.11の年として特別な年となりました。その年に、迷いつつもわたしたちは展覧会を開きました。将来、このささやかなプロジェクトは島の歴史からも消えているとしても、この展覧会に関わった私たちは一瞬間を共有したのです。ですから、ちょっとした記録を残すことにしました。

一日数便のバスが走る島内の時間は、都内より少しゆっくりと流れるよう。だから、編集作業もゆっくりだったと言い訳をしつつ、やっと発行にこぎつけました。慣れない私たちをサポートしてくれた大島町、東京都支庁、そして波浮の方々はじめ本当に多くの人々にお世話になりました。

報告書制作に付き、写真を提供してくださった皆様に心より感謝致します。そして、すべての人にスペシャルサンクスです。

編集担当 一同

【写真提供】高田芳樹 小林ナオコ 菅沼稔 尾形勝義 アナ・パート 松田陽子 豎川可奈



【主催】 2011波浮港現代美術展実行委員会  
(東京の島々を結ぶアート航路開発委員会)

【共催】 NPO CCAA 市民の芸術活動推進委員会

【後援】 大島町 東京都大島支庁  
大島町商工会  
(社)大島観光協会  
NPO波浮の港を愛する会  
波浮港婦人会  
伊豆大島漁業協同組合(波浮港)  
(公社)大島町シルバー人材センター  
東京七島新聞社  
駐日韓国大使館文化院

【協賛】 大島町教育委員会  
東海汽船株式会社  
東京造形大学交友会  
東京工芸大学芸術学部  
大島農民美術資料館(元町)  
金子勇博古館(波浮)  
ランプ坂ギャラリー(四谷)  
ぎやらりー由芽(三鷹)  
ATELIER・K(横浜)  
K's Gallery(銀座)  
GALERIE SOL(銀座)  
ギャラリーSHIMIZU(横浜)  
GALLERY 枝香庵(銀座)  
GINZAギャラリーアーチストスペース(銀座)  
TOKI Art Space(青山)  
SPC GALLERY(日本橋)  
アートギャラリーDECCO(御宿町)  
ギャラリー檜(京橋)  
SAKuRA GALLERY(清澄白河)  
ギャラリー10月(新宿)  
(株)美術出版サービスセンター  
べんてる(株)  
(株)日本標準  
村上工業(株)

【ワークショップ参加者】

矢口文子	富田友子	富田泉
嶋田幸子	尾形房子	矢口美佳
鈴木一生	富田茜里	坂下りこ
高梨哲也	小泉真理子	池谷芹菜
雨宮優奈	田中恒太	濱中佑衣
高橋知里	瀧口金太郎	浜野健太
土屋境悟	松木勝己	前沢美来
前沢美佐子	大野詩真	西川くるみ
奥井秀美		

【スペシャルサンクス】

金子勇	内山五月	秋山豊
本多保志	白井嘉則	中込靖成
藤井虎雄	宇山正泰	松木正
西川望美	上村和八	三崎屋商店(株)
秋元清	房恵一	菊地隆
浅見真一	千葉努	南海タイムズ
広報大島	松木正	スイス大使館文化部
西川望美	秋元清	波浮リトルハーバース
秋廣道郎	坂石美津枝	海洋国際高等学校郷土芸能部
秋野忠	三上洋一郎	波浮港柔道部
橋本憲治	つつじ小学校の踊り手の皆さん	

【アートアイランズ協賛者】

内山五月	内山智絵	平塚良一
菱刈千明	内堀昇一	ぎやらりー由芽
李華英	秋広陽	ATELIER・K
戸枝昌代	青木和義	K's Gallery
鶴岡富雄	本橋照明	GALERIE SOL
宮下年秀	堀英二	ギャラリーSHIMIZU
樋田美保代	片岡理江	ギャラリー枝香庵
谷川はるみ	山崎南美	GINZAギャラリーアーチストスペース
港館	高田英枝子	TOKI Art Space
高田直樹	佐藤淳	SPC GALLERY
中村弘太郎	落合硯史	アートギャラリーDECCO
村上工業(株)	(株)日本標準	ギャラリー檜
石井チズ子	高田麻理子	SAKuRA GALLERY
菊地隆	菊地信	ギャラリー10月
菊地揚子	清水信博	井出勝彦
菊地忠之	高田てる子	長谷川千賀子
中村登	飯田秀夫	Lee Ok-Num
小川早知子	吉本みな子	さかき林産(有)
柳澤剛	白井嘉則	波浮港婦人会
時枝孝良	小島澄子	ハヤシヨウコ
高田英樹	高田洋子	Tatekawa and Associates

【ボランティア】

吉本みな子	沖山和行	平廣美
平塚正彦	矢島建雄	吉本篤雄
植松恵美子	松木明美	佐々木梅子
浜野きよ江	嶋田幸子	佐藤良子
須藤久美子	川村俊彰	鍛冶成美
佐藤美香里	村瀬綾嶺	石垣梓
清水敬一	瀧本律基	大崎義貴
神戸希穂	原島七徳	藤谷秀法
濱中佑衣	雨宮優奈	池谷芹菜
宮川美波	高間晋子	秋田京子
山田美緒子	小宮山元司	清水信博
田中恒太	高田洋子	尾形房子



【発行】 東京の島々を結ぶアート航路開発委員会 高田 芳樹  
事務局: 波浮港現代美術展実行委員会 〒100-0212 東京都大島町波浮港 17 坂口方  
The Art Islands in Tokyo <http://artislandsintokyo.blog119.fc2.com>  
【編集委員】 堅川 可奈 小林 ナオコ 尾形 勝義  
【表紙写真】 高田 芳樹